（別紙4）　　令和　3　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2295800128		
法人名	株式会社　だんらん		
事業所名	スローライフ汐見台		
所在地	静岡県牧之原市汐見台14-1		
自己評価作成日	令和4年3月4日	評価結果市町村受理日	令和4年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2295800128-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社第三者評価機構　静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町８番地１　柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和4年3月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

住宅街に面し、静かでのどかな場所に面し、近くには小高い山の公園があり、季節の花々が咲き住民の散歩コースになっています。地域の避難場所にもなっていて安心して暮らせる施設です。認知症になっても思いでのある地域で仲間と一諸に笑顔で暮らせる様支援して行きます。一人一人の思いや願を受けいれ出来る限り利用者様に沿った介護を行います。地域の病院と連携を取り緊急時の対応に備えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

端午の節句の菖蒲湯やえびす講、冬至のゆず湯、節分など、昔ながらの歳時を大切にしている事業所です。食事は地域の八百屋から届く旬の野菜を使い、煮物や和え物など家庭的で普段食べ慣れているメニューを中心に手作りで提供し、お彼岸のぼた餅作りから、梅仕事、手作り味噌まで台所仕事に精を出す利用者もいて、張りのある暮らし向きがうかがえます。コロナ以前は家族の自由な行き来があっただけに、会えない寂しさから落ち着かない時には電話をかけたり、感染対策を講じて自宅へ連れ出してくれたりと家族も協力的で、住み慣れた地域で安心して暮らせる支援が為されています。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
		○	3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
		○	4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
		○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	意識し努力している。	理念は朝礼で唱和して意識づけています。「日常生活上の支援及び機能訓練を行うことにより、心身機能の維持回復を図る」は介護計画で実践されていますが、理念との紐付けが課題です。	理念に基づいた目標（月間・個人等）を立てる等、理念が職員に浸透し、行動に反映されることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年に続き、地域の交流は行っていない。	コロナ以前のような行事活動はありませんが、区長交代の折には散歩も兼ねて利用者とともに挨拶に出向き、近所の畑作業の手伝いや季節の野菜の差し入れなど変わらないおつきあいがあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェをコロナの為休んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの為なし。書面にて提出	2ヶ月ごと書面開催として、議事録と事業所通信を区長、民生委員、市長寿介護課、地域包括支援センターに手渡しするとともに、質問用紙を添付して意見・要望を聴取しています。	聴取した意見や要望の回答を紙面に掲載するなど、メンバー間で共有されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要がある場合にみ、相談窓口へ相談する。	実地指導における指摘事項には丁寧な指導があり、これに沿って改善計画を提出して取組んでいます。運営推進会議議事録には、ヒヤリハットと事故報告を記述し、運営の透明性の確保に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設は身体拘束0宣言をしている施設である、利用者様の尊厳につとめている。不適切ケア無しを目指しています。	身体的拘束等適正化を図るための措置については行政指導を受け、指針の整備、3ヶ月毎「身体拘束廃止委員会」の開催、定期的な研修及び新任研修を遂行しています。委員会では個別ケース検討をおこなって拘束のないケアを実践しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての学びの機会を中々持つことが難しい状況ではあるが、虐待が見過ごされることがないように身体や精神状態には気をつけてみている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員個々の勉強はしているが、全体での話あい、研修は行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明をご家族に実施している。又その都度、質問等があれば伺っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の意見を直接伺う事が出来ませんが、要望があれば日頃の介護に反映させています。	受診支援をお願いし、来所の際に意見・要望を聞いています。会えない寂しさから落ち着かない時には、電話をかけたり、感染対策を講じて家族が自宅へ連れ出してくれたりと協力が得られています。	昨年より事業所通信を発行していますが、コメントを入れるなど日常の様子がさらに伝わる工夫を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議をもうけ職員からの意見や提案を聞いている。反映出来る事は行っています。	月に一度グループホーム会議を開いています。どの職員も自分の意見を言えるよう「グループホームノート」に検討事案を書き込んで会議に提示し、現場での課題を共有して、解決に向けた話し合いがおこなわれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	務める様努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の為会社も積極的に協力し、参加したい研修に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの為なし。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の言葉に耳を傾け、しっかり受け答えをし、信頼関係が早期に作られるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や不信感を持たない様、初期に信頼関係を築く努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の思いを汲み取り共に生活する者として関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの為なし。（ストレスが強い場合は、馴染みの場所に同行する時もあります）	趣味の編物を続ける人は次々とマフラーや帽子を仕上げ、利用者にプレゼントしています。昔ながらの味噌作りなど台所仕事に精を出す人もおり、草取りに励む人は事業所周辺の環境整備に一役買っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中関係性を把握し、その都度臨機応変に対応し、努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族様が、相談等に見えたら、必要に応じ相談や支援を行う。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の言葉に耳を傾け、しっかり受け答えをし、信頼関係に努めている。思いを把握する努力はいつも職員同士が相談し出来る限り実施している。	隣に座って一対一で思いを聴き出せる時間を作り、「～したい」という願いや「いつ迎えにきてくれるんだろう」という不安な気持ちを受け止め、支援記録に記載して情報共有し、安心できる暮らしを模索しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所情報にて把握したり不明時はケアマネに確認しているが不足の部分は、家族に伺う。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の様子、心身状態等毎日把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間では全体会議(必要があればその都度)にて利用者様の課題ケアは話しあい、介護計画を作成している。	グループホーム会議において、計画作成担当がモニタリングを進め、職員意見を聞き取って介護計画を作成し、介護支援専門員がチェックしています。更新された介護計画は会議で職員に周知しています。	サービス内容の実施が記録に反映されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過記録として、記録している。職員間でも話あいをし、実践等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。	かかりつけ医を全員が継続しています。事業所からのバイタル表等を携えて家族が受診支援し、結果は職員が「受診結果報告書」に記録しています。遠方の専門医とはオンライン診療も可能となっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様には、十分な話あいと説明をし、理解して頂けているが、地域の関係者とは支援に取り組めていない。	契約時、看取りに取り組んでいないことを説明し、家族には了承を得ています。24時間連絡が取れる医療との連携体制はありますが、開設5年目で対象となる人もいないため、職員間の看取りに対する方向性は定まっていません。	「ここで最期まで」と希望する家族の思いを汲み、職員間で看取りについての話し合いが積み重ねられることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練、研修を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練に参加し、地域の方にも得理解して頂き築けている。	年間行事予定に組み入れて年2回の避難訓練を実施しています。消防署職員により消火器の使い方、救急法の指導を受け、地域防災訓練には、利用者と一緒に指定緊急避難場所まで歩いています。	入職時オリエンテーションに災害時の初動対応の説明を加えるとともに、防災訓練への参加有無や、訓練メニューチェックリスト等で、未体験の職員がいないよう期待します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉がけは丁寧に、プライバシーは守り対応している。	毎年接遇研修を企画し、今年度は不適切ケアについて学んでいます。忙しさに追われ業務優先になると不適切ケアが生じかねないことを再確認し、日頃のケアを省みる機会となっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の自己決定を尊重させていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活スタイルはあるが、個々のペースも尊重し、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナの為思うように調理は出来ていない。片づけは出来る方に無理なく行ってもらっています。	地域の八百屋から届く旬の野菜を使って、煮物や和え物など、家庭的で普段食べ慣れているメニューを中心に、手作りで提供しています。おせち料理、恵方巻、お彼岸のぼた餅など行事食も取り入れています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず、誘導しケアを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	情報を共有し、自立にむけて支援している。	家族の経済的負担の軽減と皮膚トラブルを避けることに着目し、日中は全員が布パンツを使用しています。排泄チェック表による一人ひとりのパターンの把握で、失敗のないトイレでの排泄が叶っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来ていない。	週2回を目安とし、嫌がる人には無理強いせずタイミングを見計らって誘っています。ゆずを浮かべると冬至、菖蒲で鉢巻きすれば端午の節句、と昔ながらの風習を懐かしみ、穏やかな表情から思い出話がこぼれます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一部の職員のみ努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出できない分、室内で楽しめる様努めている。個々の好みに応じ食事等対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為外出は控えているが、施設周りの散歩家族の面会は支援している。	車に乗ることが不安要素となって落ち着かない人がいるため、散歩に専念しています。一日一回、四季折々の公園までの道のりを楽しんだり、個人のペースに合わせ、速足で歩く人にはマンツーマンで付き添っています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	物摂られ、紛失を避けるため所持は行っていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	しています。	床やベッド柵、手が触れる場所は全て薬剤で拭き上げ、感染対策に力を入れています。職員と利用者共同制作による吊るし雛や、シーズンごとに入れ替えられる絵手紙作品、職員が手入れする玄関のプランターが、来訪する人の心を和ませています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	している。。	位牌、遺影等の持参がありますが、日中はフロアで過ごす人が多いため、衣装ケースなど簡易な持ち込みが増えています。車いす利用者には立ち上がりを補助するL字型ベッド柵を設置しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に自立した生活が出来る工夫をしている。		